

国によらず 質の高い助産ケアを受け、 新しい命を迎えられる世界へ。



タンザニアの妊産婦さんの健診ボランティア



医学部
大学院医系科学研究科 教授

新福 洋子

SHIMPUKU YOKO

専門研究分野

国際保健看護学、助産学



助産師たちと開発したアプリを使用



妊婦と家族への集団保健指導

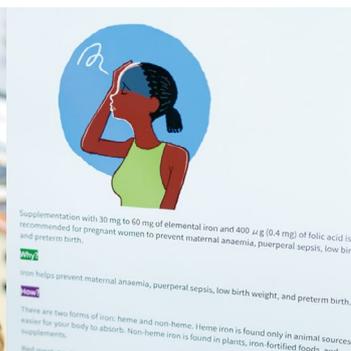
自分が生まれた時のことを聞いたことがありますか？ 妊娠・出産はその度に違うもので、女性一人ひとりに物語があります。日本の場合、妊娠・出産で女性が命を落とすことは非常に稀です。しかしながら、アフリカ、特に私の研究フィールドであるタンザニアでは、日本の100倍以上の割合で、妊娠・出産による死亡が起きています。それを防ぐには、妊婦健診で母子の状態を適切にアセスメントして情報提供し、出産時にケアに当たる助産師が十分な知識を持っていること、また助産師が女性に落ち着いてケアが提供できるような環境の整備が必要です。また、女性に一方的に情報を伝えるだけではなく、適切な時期に病院に来てもらうにはどうしたら良いかを理解してもらい、具体的な準備をしてもらうことも必要です。

タンザニアで助産師教育と妊産婦教育の改善、これら二つを進めるために、現地の大学院で教育を行うことに加え、研究で女性たちの声を聞き、科学的な手法を用いてまとめました。その後、女性の声を反映する形で、環境に合わせた教育プログラムを開発し、妊娠・出産に関する危険なサインや準備を伝えることを行いました。結果、教育を受けた女性と家族は、緊急時に

行く医療施設を知っていたり、妊婦健診に行く回数が増えたり、家族の付き添いを決めていたこと、また女性や生まれた子どもに合併症が少ないことがわかりました。教育効果が見受けられたので、これを国の中でどう広げたら良いかと考えた時に、タンザニアでは昨今スマートフォンの普及率がとても伸びていることから、教育アプリの開発を考えました。アプリ開発のベンチャー企業と連携し、助産師教育アプリと妊産婦さん向けの電子母子手帳を開発しています。助産師は、この新しい教育アプリをとても喜んで使ってくれています。

世界保健機関(WHO)はフローレンス・ナイ

チンゲールの生誕200年の記念である2020年を「Year of the Nurse and Midwife (看護師・助産師の年)」として定め、2021年6月までさまざまなイベントを開催しています。その一環として、「100 Outstanding Women Nurse and Midwife Leaders (世界の卓越した女性の看護師・助産師のリーダー100人)」に日本で唯一選んでいただくという経験をしました。これまで苦勞し、楽しみながら続けてきたタンザニアでの教育研究活動が評価されたことは、非常に光栄な経験でした。今後もその名に恥じることなく、世界中の妊産婦さんたちにケアを届ける教育研究活動を続けていきたいと考えています。



(左) 今後はエチオピアやエジプト、ザンビア、マラウイなど、アフリカの他地域にも研究フィールドを広げ、助産ケアに尽力したいと語る新福教授。
(右) 開発中のアプリでは、例えば妊娠中に摂取すべき鉄分について、なぜ鉄分が必要なのか(Why)、必要な鉄分を摂取するにはどうすればよいか(How)といった実践的な内容をわかりやすいイラストとともに示している。

研究拠点の創出へ

自立型研究拠点

活発な研究活動を展開する研究拠点を支援し、さらなる発展を促すことで世界的研究拠点の継続的な創出を目指します。

- 再生医療研究拠点
- プレート収束域の物質科学研究拠点
- 広島大学医療経済研究拠点
- エネルギー超高度利用研究拠点
- 広島大学健康長寿研究拠点
- キラル国際研究拠点
- 極限宇宙研究拠点
- 基礎研究を畜産技術開発につなげるトランスレーショナル型研究拠点
—日本型(発)畜産・酪農技術開発センター—
- 創業・バイオマーカー拠点
- うつ病の革新的診断・治療法開発研究拠点
- 窒素循環エネルギーキャリア(Nキャリア)研究拠点
- 社会実装指向型 HiSENS拠点
- クロマチン動態数理研究拠点
- 肝臓・消化器研究拠点

右左の謎を解き明かす (キラル国際研究拠点)

右手と左手はよく似ているにもかかわらず、全く同じではありません。この違いをキラルと呼びます。右手系だけで作った磁石は普通の磁石と全く異なることが我々の研究で明らかになっています。このキラル磁石の問題は、生物の分子の問題や高エネルギー物理学の問題等とも共通性があることがわかりつつあります。これらの問題を基礎科学の目から解明しています。

